



## 地球は何からできているの

### 地殻、マントル、核の3つの部分からできている

地球の作りは、ゆで卵やあんの入ったまんじゅうのつくり、たとえることができます。ここでは、ゆで卵のつくりと比べて説明します。

いちばん外側は卵の殻にあたる部分で、地殻とよばれています。厚さは5～50キロメートルで、岩石でできています。地殻の内側は卵の白身にあたる部分で、マントルとよばれていて、地下約2900キロメートルの所までをいいます。ここも岩石でできていますが、地殻をつくっている岩石とはちがう種類の岩石です。

中心は卵の黄身にあたる部分で、核とよばれ、内核と外核に分けられます。内核は固体の金属の固まり、外核はどろどろの液体の金属で、内核のまわりを取りかこんでいます。

### マントルの中でマグマができる

地下数10キロメートルより深い所（マントル）では、温度は1000℃以上になっていますが、まわりの圧力（物をおしつける力）が大きいので、温度が高くても固体の状態です。何らかの原因で圧力が小さくなると、高い温度の液体になります。これをマグマといいます。

このマグマが、地殻の割れ目などにそって上がっていき、地下数キロメートルから10数キロメートルの所にたまります。これをマグマだまりといいます。火山が噴火するとき、このマグマだまりから、マグマが地表にふき出します。（監修・国司 真）

